

プログラム名	土壁ワークショップ	
実施団体	○団体名：土壁塗ろう会 ○代表者名：庄司 徹 ○電話：022-719- 2256 ○FAX：022-719-2256 ○住所：仙台市青葉区川平 2-9-48 ○E-Mail：sakan21@cup.ocn.ne.jp	
対象者	小学生、中学生、高校生 成人、高齢者	
対象者数	20人	
学習場所	室内及び屋外	
学習時間	2時間	
学習時期	4月～10月	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	作業道具 (鏝、鏝板、舟、鍬、スコップ、バケツ) 材料 (土壁用下地、土、わら、事前に練置きした土等) 参加者名簿、名札、ワークシート、アンケート用紙、記録用カメラ等
	利用者側	汚れてもいい服、着替え、長靴、ゴム手袋、タオル、筆記用具
事前打ち合わせ	実施の1ヶ月前及び2日前	
効果的な学習段階	住居という身近な暮らしの環境について考えるきっかけとして。 土などに触れる機会の少ない子ども達に、泥遊びの感覚で始めてみてほしい。 学習段階としては、昔の暮らし、伝統的な家づくりの視点では生活科や社会科、また住環境などの視点からは技術・家庭科での体験的、実践的学習として幅広く活用できる。	
学習概要	1. 学習のねらい	
	○昔と現代の住居を比較し、人々の生活について考えるきっかけとする。 ○土壁は役目がすめば土に還ることからゴミがでない特質があり、リサイクルという視点から循環型社会に適した工法であることを学ぶ。 ○「土作りの仕組み」を通して、土のにおいや感触を確認し、土の発酵などの自然の仕組みを学ぶ。 ○説明→実演→体験の流れで、興味や印象を効果的に与える。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	(1) 壁土作り ①使用する道具の種類、形、使われ方を説明する。 ②舟(箱型の土をこねる器)で、粘土と藁をませ、土壁の材料をつくる。 交代し全員に体験してもらう。 ③どのような土が土壁に適しているか理解する。	素足などで楽しみながら体験すると効果が高い。 土壁の土に適した、粘性、自硬性が高く、握りしめた後、形が崩れないような土を体験してもらう。 実際に土壁にするためにはこの作業のあと、1ヶ月程養生させ、藁を発酵させてから、使用する。 1ヶ月経過した土は、変色し、においがする。学習ではあらかじめ1ヶ月経過したものと比較し、粘性などを比べてもらう。



学習概要		(2) 土壁塗り ①土壁のしくみを説明 竹小舞(竹と藁縄で編んだ下地)に練った壁土をくっつけていく。 ②土壁塗り実演 鏝板に壁土を載せ、鏝を使って壁にこすりつける。	たけこまい 竹小舞は網目になっているので、土を塗っても剥がれにくい構造となっている。 土は重く、鏝板から鏝に取るのが難しい。最初は少しずつ乗せるといいでしょう。
		③後片付け・清掃 使った道具をきれいに洗って、後片付けを行う。	道具を大切にすることを学ぶ。
		(3) フラワーボール作り 主に壁の仕上げ材に使われる漆喰を身近に感じてもらうため、漆喰ボールに、色を付けた漆喰ペストを何度も塗り重ねることで、びかびかの漆喰ボールをつくる。	自分の好きな色で楽しく塗っていく。漆喰の磨くとピカピカになる性質を体感してもらう。ボールを持ち帰ってもらうことによって、漆喰がどんな変化をするのかを観察し、漆喰の特性を更に理解することにつながる。
	4. 学習のまとめ		
ワークシートに、今日体験したことの感想・意見を記入してもらう。 土壁塗りの体験を振り返り、質疑応答、意見交換を行なう。 参加者の年齢に応じて、相応の質疑(気付き)を提供し、皆が考えをまとめられるよう指導する。			
追加・変更できる学習内容	土壁の下地作り(竹小舞)の実演		
事前・事後学習についての助言	事前に参加者の住宅が、どのような造りかを学んでおくとういでしょう。 身近に蔵、土蔵などがあれば内部を見学し、空調の効いていない状態での外気との違いを体験するのも良いでしょう。 シックハウス症候群など、昔はなぜ起きなかったかを考えるきっかけになれば良いと思う。		
雨天時の学習内容	基本的には屋外での作業を想定しているため、雨天時の作業は難しいが、屋内(または屋根のある場所)で作業ができる場所があれば実施可能である。 作業ができない場合は、室内において、写真パネル等で、土壁の仕組み・歴史などを学ぶ。		